

若手研究者のための申請書作成 —研究のベンチマークとして—

佛教大学歴史学部歴史文化学科
網島 聖

構成

1. 若手研究者と科研費申請書の接点
2. 若手研究者のネットワークづくり
3. 就職時の科研費申請
4. 申請書の作り方

おことわり

- 今日のお話は個人的経験に依拠した内容です
 - 人文地理学（小区分）
 - 院生→非常勤→学振PD→任期付助教→本学専任教員
 - 国立大学→私立大学

大学院生と研究費申請書の接点

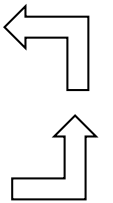
- どうせ当たらないのに、学振を出す必要はない？
- 博士論文の執筆とベンチマークとしての学振申請書
- 学振申請書作成の経験から科研申請書作成のノウハウへ

駆け出し研究者と科研費の接点

- どうせ当たらないのに面倒？...基盤Cだと4割近く採択の年も
 - 研究費が足りないので競争的資金が必要になる（場合も）
 - とにかく大学から出せ出せと言われる（場合も）
 - （比較的）成果発表の媒体に制約が少ない
- ↓
- 無理やり、イヤイヤ出すものであっては良くない

研究ベンチマークとしての科研申請書

- 研究のアイデア
 - （個人）調査～学会口頭発表
 - （研究会）議論と役割分担～学会口頭発表
- ↓
- **科研申請書作成** ...進捗状況の確認
- ↓
- 採択：本格的調査（予算、人数がかかる）
- 不採択：計画の練り直し、さらなる発表
 - 研究計画へのフィードバック



学振DCから学振PDへの道のり

- 採択に「相場」はあるのか？
- 余談：採択されたら「おすそ分け」は必要か？
- とはいえ、成果ばかりを気にしては良い研究はできない

研究室の指導体制と情報収集

- 研究室に学振採択経験のある先輩がいると一番良いが...
- 研究室で採択された申請書の保存・共有化...管理の徹底！
- 指導教員の添削とフィードバック

若手研究者のネットワーク作り

- 世に出回るハウツー本はほとんど理系向け...（参考にはなる）
- 先輩・同期に学振、科研採択経験者がいない場合
- 学会での様々な交流が肝要
 - 国内学会
 - 国際学会

就職時の科研費申請

- 就職したら個人の研究費がなかった...
- 様々な研究機関の役割とその財務状況
 - 任期付教員に課される職務専念義務
 - 選任になっても研究費は年間たった3万円??
 - 間接経費と事務の手助け

ゴールをイメージした研究計画

- 博論のできあがりイメージした学振申請書
- 口頭発表をとっかかりに論文執筆までをイメージする習慣を
↓
- 最終的成果は単著にまとめる?
 - 複数のプロジェクトにまたがる場合も

個人研究の科研費申請

- これまでの研究歴を踏まえた課題設定
- 予備調査、前段階のプロジェクトによる説得力あるデータ
- 業績の蓄積...学会発表、論文投稿の機会を逃さない

研究者スタートと科研費の付き合い

- 研究協力者に混ぜてもらおう（院生）
- 研究活動スタート支援
- 若手研究
- 分担研究者に混ぜてもらおう
- 基盤研究(C)、(B)で共同研究を計画する

計画の信ぴょう性

- 計画の実行可能性
- 予算の裏付け
 - 何にどれくらいお金がかかるのか?...定期的な支出の機会
 - 概算で良いので普段から考える癖をつける
- そして、やはり業績

共同研究の科研費申請

- 勉強会、研究会を基礎にした課題の共有
- 資金、人手が必要な研究計画であることをアピール
 - 予算配分の妥当性
 - メンバー全員にきっちり役割があるか?
- 議論、意見集約の機会を確保...研究会、勉強会、合宿の設定

申請書と研究計画のフィードバック

- 学振...博士論文構想を基本に書く
- 裏付けのある申請書...口頭発表、すでに行った調査のデータ
- 基本は指示通りに項目を区切って、わかりやすく

申請書の作り方

- ともあれ、申請書の書き方にはコツが必要
 - 専門以外の人にもわかりやすく
 - 文章は段落冒頭に簡潔に言い切ったのち、後ろに詳細説明を加える
 - 研究の背景は教科書を書くつもりで...実は論文の要点でもある
 - 具体的な内容
 - いつ?どこで?何を集めるのか?公表は?
 - できれば図を用いたほうが理解が進む...予備調査が進んでいると望ましい
 - 結果、何がどこまで明らかになるのか?

ご清聴ありがとうございました